

目指す学校像	生徒が、希望をもって登校し、笑顔で活動し、満足して下校する学校
--------	---------------------------------

重点目標	1 「さいたま市GIGAスクール構想」の推進と「主体的で、対話的で深い学び」の視点からの授業改善 2 組織的な生徒指導、教育相談体制の充実と心と体の健康増進 3 開かれた学校づくりの推進 4 生徒の夢の実現を支援できる教職員（教職員研修の充実）
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価		年 度 評 価		学校運営協議会による評価				
年 度 目 標		年 度 評 価		実施日令和5年2月13日				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、どの教科も良好な結果である。 ○主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善を図り、教科部会の充実を図るとともに、GIGAスクール構想によるタブレットPCを効果的に活用し、「わかる授業」の実践を積み上げ、真の学力の定着を図る。	・教育DXで実現させる学びの自律と個別最適な学び、探究化に、情報端末の活用を含んだ授業改善。 ・教科横断型探究的な学びである「STEAMS TIME」を、生徒の興味関心がわくようなものにしていく。	・スタディアプリを活用し、ICTを活用した学習支援のあり方を検討し、さらなる学力向上につとめていく。 ・全国学力・学習状況調査について、生徒が自己採点を行い、早期に生徒自らが学習状況を把握できるようにする。	・校内での研修会を実施し、スタディアプリを活用した学習支援のあり方を検討できたか。 ・全国学力・学習状況調査の結果分析を教職員全体が組織として行うことができたか。	・スタディアプリ活用した学習支援のあり方について、週1回の研究推進委員会で検討を進めてきた。他校の様子や校内の教員の考えを収集し、共有することにより全生徒の具体的な活用について検討をした。 ・市教委指導主事を招聘し、年間2回の全国学力学習状況調査の分析を行うとともに、校長による分析と今後に向けての取組について研修を実施した。	A	・スタディアプリのより一層の活用に向けて実施・検討していくことや全国学力学習状況調査の分析を、普段の学習でどのように生かしていくか、各教科等での検討がより一層求められる。 ・市教委指導主事を今後も招聘し、様々な角度からの分析と生徒へのアプローチを考え、実践していく。	・スタディアプリの効果的な活用により学力向上が期待できる。 ・今年度、今までにない多くの取組をして子どもたちの学力向上につなげようとしている教職員の皆さんの熱意、努力を感じる。 ・「さいたま STEAMS 教育」の目的の実現のため、教職員が多くの努力をし新しい取組を行っていることに敬意を表したい。 ・来年度は、また新たなシートを作成を行うことになるが、今年度を踏まえ、これからも大原中の子どもたちのため、皆で協力、努力をしていきたい。
2	○今までのコロナ禍において、校内における安全対策を進めることができてきている。 ○定期安全点検を通して修繕箇所等を早期に発見し、改善を進めている。 ○教職員の毎月の施設設備等安全点検を確実に実施するとともに、生徒自らが危険を予測し、回避する力を育成していく。 ○コロナ禍において、ストレス等を感じている生徒も多いことが予想される。今後も生徒一人ひとりの状況を的確に把握していく体制を構築していく。	・生徒一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実。 ・教職員・生徒ともに安全で安心できる人的・物理的な危機管理意識を高める。	・教育支援・相談に係る校内委員会を定期的に開催し情報共有を行っていく。 ・生徒対象のアンケートや面談等を定期的に実施し、生徒一人ひとり状況を継続的に把握し、組織的な対応を行う。	・教育支援・相談に係る校内委員会を定期的に開催できたか。 ・年度末の教職員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が85%以上になったか。 ・年度末の生徒や保護者アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が85%以上になったか。	・週1回教育相談部会を設定し、多くの生徒の情報共有を行うことができた。 ・学校評価(教職員用)において教育相談の評価項目について肯定的な回答が95%以上となった。 ・学校評価(生徒用)、同(保護者用)において関連する項目の肯定的な回答の平均の割合が87%となり目標達成。	A	・今後も定期的な教育相談部会を設定していく。 ・今後より一層「鋭敏な感覚、的確な判断、迅速な行動」を全教職員に意識させて、組織的な教育相談体制の構築を行う。 ・来年度新たに学校経営の重点に「Well-beingを意識した学校生活の推進」をどの教育活動でも実践できるように管理職が全教職員に指導助言支援を行っていく。	・コロナ禍において学校閉鎖等大きな感染がなかったことは生徒、教職員の努力の賜物で対策が効果的であったと評価できる。安全対策に教職員が多くの努力をしていることに感謝したい。 ・学校現場は危険が多い。非常階段や防犯カメラ等意見書の内容は引き続き要望してほしい。 ・今後も子どもたちが安全安心に学校生活が送れるよう本委員会として協働していきたい。また、要望書を踏まえ市教委等の実効性のある取組を期待する。
3	○昨年度コミュニティ・スクール(CS)準備委員会を実施し、CSの実施に備えてきた。 ○今年度学校運営協議会を立ち上げ、目指す生徒の姿について熟議を積み重ねたり、自らの課題を見出したりし、協働して育成する生徒について地域全体で育てていくことを共有していく。	・「さいたま市コミュニティ・スクール成長モデル」を指針として、本校のCSの運営に努める。 ・本校の教育活動等を積極的に情報発信し、保護者・地域から信頼される学校づくりを推進する。	・チャレンジスクールを通じた学びの輪の充実を図る。そのために、放課後等に学校等を活用し、学校地域連携コーディネーターを中心に、地域住民等の参画を得て、チャレンジスクールを引き続き推進していく。 ・学校運営協議会において「さいたま市コミュニティ・スクール成長モデル」を周知し、CSの理解を深める。	・チャレンジスクールの実施回数を増やすことができたか。 ・教職員の年度末のアンケートで、「コミュニティ・スクールの一員として目指す生徒像を共有できた」等肯定的な割合が80%以上となったか。	・チャレンジスクールの実施回数は3回減少したが、平日の開催は、昨年度実施しなかったが、今年度は7回実施し、生徒のニーズに合わせた実施ができた。 ・教職員用アンケートにおいて、目指す生徒像を含む学校教育目標の実施状況の肯定的な割合が83%となった。	A	・生徒のニーズに合わせて今後も検討し、充実したチャレンジスクール実施を行っていく。 ・充実した学校運営協議会になるように、今後も熟議の内容や議題を委員の皆さんと考え実施していく。	・チャレンジスクールは、生徒のニーズに応じた実施に取り組まれている様子がよくわかった。チャレンジスクールには、塾に行けない生徒等個に応じた学びの実現のため今後もより一層の活性化を期待する。 ・未来くるワーク体験では、体験できる職種、内容がこれからも広がるように協力していきたい。 ・地域との交流を通して様々な人がいるということを学ぶことができ、人間関係構築、コミュニケーション能力の育成等、学校教育目標につながるので、今後の活性化を期待する。
4	○エバンジェリストが中心になり、情報端末をはじめとしたICT活用方法について、研修を進めてきた。 ○校務用PCを含むICTの活用について、今後より一層の教員研修が求められる。校内研修に計画的に位置づけ、ICT活用の研修を進めていく。	・授業力向上を図るための学び合い、高め合いを実施する。 ・教職員一人ひとりが力を発揮し、目指す教師像の具現化を図る。	・教員一人ひとりが年間を通して取り組む授業力向上のテーマを設定し、授業を公開する。 ・各自の授業力向上の取組に関する資料を他の職員に広報する。 ・ICT活用の研修を行う。	・全教員が、年間を通して取り組む授業力向上のテーマを設定することができたか。 ・全教員が、授業を公開することができたか。 ・ICTの活用について研修を複数行うことができたか。 ・講師を招いての学習評価の研修会を実施することができたか。	・今年度市教委指定「教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成についての研究」を計画的・組織的に進めることができた。 ・全教員が、1回以上授業公開を行うことができた。 ・ICTの活用についての研修会を複数回実施することができた。 ・市教委指導主事を招聘し、年度初めに、学習評価研修会を実施した。	A	・来年度の市教委指定「教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成についての研究」に向けて、計画実施振り返りを行い、教職員一人ひとりの授業力向上に取り組むとともに、主権者教育の充実につなげていく。 ・ICT活用の研修を今後も取り入れ、授業での積極的活用をすすめていく。	・市教委指定を受け、積極的に教育課題に取り組まれていて素晴らしいと思う。 ・今日の教育課題に今後とも積極的に取り組んでほしい。 ・今年度の学校の新たな取組が、様々な表彰につながっていることがよくわかった。